

令和6年度
総合福祉施設 京都桂川園 事業報告書

1. 事業総括

令和6年度は、主に介護・障害の報酬改定への対応、新しい管理体制における指揮管理及び職員育成の体制づくり、高齢障害の一体的運営、老朽化対策に向けた京都市との調整に努めた。また、これらの実践のために法人本部・高齢事務センター・高齢障害4施設への協力を求め、専門家の派遣や検討する機会を設けた。

報酬改定については、高齢・障害共に入所施設と医療機関との連携、処遇改善・職場環境改善、生産性向上の検討、感染症及び自然災害発生時の実効性のあるBCPの策定についての整備に努めた。また障害者入所支援施設については、入所者本人の希望に応じた地域移行に向け、入所者の意思決定支援について見直しをしているところである。

3/10から療護園において新型コロナウイルスによるクラスターが発生、京都桂病院及び高齢3施設に看護職員 の派遣応援及び園内各事業からの協力体制により、3/30に終息に至った。

職員確保問題と生活介護事業の事業安定を優先するべく、京都桂川園久世障害デイサービスセンター・ショートステイのショートステイに関して、令和6年10月1日から事業休止を行った。再整備を検討したが、令和7年9月30日をもって事業廃止及び事業所名を変更することを予定した。

2. 重点実施項目

① 働きがいのある組織づくり（人材確保・職員育成）

- ・高齢事務センターとの円滑で機会を逃さない連携体制のもと、人材確保に努めた。採用活動に関し、更なる工夫を要する。
- ・7年度の本格実施に向け、人事考課制度の試行を開始、職員育成についての体制整備に努めた。
- ・キャリアパスに基づく職員研修体制の整備を継続して目指していく。
- ・人事担当を軸とした外国籍労働者（特定技能・留学生）の受入れ体制の整備を行った。資格取得支援を含め継続して工夫していく。
- ・シニア世代への対応については、定年制を60歳から65歳へ見直しを行った。65歳以上の直雇用者の確保にも努め業務内容の調整など検討を継続していく。
- ・労務管理や福利厚生に関して、高齢事務センター・京都厚生園との日常的連携により適正な対応に努めた。所属長の育成を継続する。
- ・高齢・障害の協働体制については、感染症BCP等の取り組みだけでなく、一時的に職員体制が弱くなった部署に対し、協力・連携に努め部署間のつながりを強化した。

② 経営基盤の充実への取り組み

- ・報酬改正に伴う加算算定等、特に障害サービスについて工夫改善を行い、上位の加算算定を目指し調整した。
- ・入所施設の稼働率維持については努力した。新規ケースの獲得は年々厳しくなっているため継続して工夫をしていく。
- ・老人デイサービスの運営課題については解決に至らず継続検討となる。
- ・特養併設のショートステイについては、職員体制が整わないことから下半期以降の新規獲得を中止した。
- ・居宅介護支援事業・地域包括支援センターについては年度を通して専門職の確保ができなかったが令和7年度に向け採用を行った。
- ・地域包括については、社会福祉士等の確保が継続して必要である。
- ・コスト低減について、日用品の購入から保守管理費用まで点検を開始し、見直しを行っているところである。

③ サービスの質の向上・維持・確保

- ・不適切ケアをなくすための職員ヒアリング・研修・体制整備に努めた。3月から京都市介護相談員派遣事業の受入れを開始した。
- ・介護予防・重度化予防の取り組み強化（運動・栄養・口腔・褥瘡予防・楽しみ・活動・つながりの維持及び拡大）について、特に特養において栄養・口腔・看取り介護についての総合的な委員会を発足、多職種での協働体制の構築に更に努めていく必要がある。
- ・障害入所支援においては、利用者の意思決定・金銭管理を含めた権利擁護について見直しを行い調整を開始した。
- ・部署間の応援体制からの気づきを踏まえ、高齢・障害一体的なマニュアル作成を開始、全事業のマニュアル作成状況の点検を行った。

④ 災害・感染症等への対応

- ・防災に係る地域・施設間連携会議での検討には至らなかったが、まずは園内の防災・防犯・BCP（感染症・自然災害）の整備と研修に努めた。初動対応を中心としたマニュアル作成及びシミュレーション研修を行った。
- ・3/10～3/30までの療護園の新型コロナのクラスター発生時においては、複数の看護職員の感染を受け、京都桂病院・法人内高齢3施設の看護職員に応援を求め、3/17から3/25まで看護職員派遣を受けた。また京都桂病院感染管理認定看護師による施設巡視及び指導・訓練を受け、終息に向けることができた。
- ・感染症対策及び入所者の円滑な入退園調整・法人内連携の強化を目的とした、協力医療機関との連携においては、定期的な会議に置いて調整を行った。

⑤ 地域における公益的な取組の推進

- ・長年の地域との交流が基盤としてあるため、地域交流の再開については、地域からの声かけが多かった。主に川岡東小学校・桂川中学校・川岡東児童館・川岡東自治連合会との交流に努めた。区民運動会、桂川ふれあい祭り等、利用者も参加した。
- ・桂川中学校卒業記念ボランティアの受入れにおいては、園内行事と合わせて行った。
- ・園主催で防災研修・防災イベントを実施した。
- ・地域包括支援センター主催の地域ケア会議においては当園を会場として実施した。

3. 実績報告

	事業名	定員	年間利用者数	稼働率
①	京都市桂川特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設/365日)	50名	17,847名	97.8%
②	京都市桂川老人デイサービスセンター (通所介護/309日) ※休業1日間	25名	5,487名	71.0%
③	京都市桂川療護園 (障害者支援施設/365日)	40名	14,310名	98.0%
④	京都市桂川障害者デイサービスセンター (生活介護/257日)	20名	4,900名	95.3%
⑤	久世障害デイサービスセンター・ショートステイ (生活介護/257日)	20名	4,269名	83.1%

※その他実施事業

京都市桂川特別養護老人ホーム（老人短期入所生活介護）、桂川居宅介護支援事業所（居宅介護支援）、京都市桂川地域包括支援センター（地域包括支援センター予防/委託）、京都市桂川療護園（障害者短期入所）、久世障害デイサービスセンター・ショートステイ（障害者短期入所）、久世障害相談支援事業所（障害者相談支援）

4. 職員数

常勤職員	非常勤職員	派遣職員	合計
76名	50名	21名	147名

5. 施設整備等（設備投資）

①	電話設備更新(久世障害デイサービスセンター)	533,500円
②	ボイラー熱源ポンプ取替(療護園)	440,000円
③	浴室換気扇更新(久世障害デイサービスセンター)	165,000円
④	電動自転車(居宅介護支援事業所)	138,100円
⑤	スチーム清拭車(特別養護老人ホーム)	200,000円
⑥	食材調理加工機ブリクサー(療護園)	199,000円
⑦	ノートパソコン(地域包括支援センター)	185,680円
⑧	電気湯沸器(特別養護老人ホーム)	169,400円
⑨	厨房系統給湯器取替(療護園)	456,500円
⑩	ティーディスペンサー(久世障害デイサービスセンター)	336,600円
⑪	テレタイム2台(特別養護老人ホーム、療護園)	352,000円
⑫	電子カルテワゴン(療護園)	101,200円
⑬	エアマットレス(療護園)	132,000円
⑭	消毒保管庫(特別養護老人ホーム)	484,000円
⑮	特殊浴槽(療護園)	6,380,000円
合計		10,272,980円